

特許願 (F-2)
昭和50年12月夕日

特許庁長官 萩原英雄殿

1. 発明の名称

ターボファンエンジンに於けるノズル翼の支持装置

2. 発明者

居所 東京都田無市向台町3丁目5番1号
石川島播磨重工業株式会社 田無工場内

氏名 藤又二郎 (外名)

3. 特許出願人

居所 東京都千代田区霞が関一丁目3番1号

氏名 (114) 工業技術院長 松本敬

4. 添付書類の目録

(1) 明細書
(2) 図面
(3) 願書副本
(4) 出願審査請求書

持許庁 50.12.4
出願第二回 通
通
通
通

明細書

1. 発明の名称

ターボファンエンジンに於けるノズル翼の支持装置

2. 特許請求の範囲

ノズル翼のフランジの支持面にアールをサポート材のアールの径より小にして設けると共に段差部及び切欠部を設け、上記フランジをサポート材にスペーサを介し支持せしめて上記ノズル翼が傾斜し両持ち支持され得るよう構成したことを特徴とするターボファンエンジンに於けるノズル翼の支持装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、ターボファンエンジンの運転時にそのノズル翼部及びフランジ部において生ずる応力を最小にし得るターボファンエンジンに於けるノズル翼の支持装置に関するものである。

航空用ガスタービンの高出力及び高性能化が絶えず要望されており、この要望を達成するために現在では系の作動圧力とタービンの作動温

⑯ 日本国特許庁

公開特許公報

⑯ 特開昭 52-68610

⑯ 公開日 昭52. (1977) 6. 7

⑯ 特願昭 50-14317

⑯ 出願日 昭50. (1975) 12. 4

審査請求 有 (全4頁)

庁内整理番号

6620 32

⑯ 日本分類

F1 B73/1

⑯ Int. Cl. 2

F01D 8/02

識別記号

度を上昇させる方法が最も有力視され、この方法に基づいて高温高圧作動タービンを有するエンジンが競つて開発されつつある。

ガスタービン中で最も高温に晒されるノズル翼は冷却構造を有する等のことにより設計が複雑化するので、従来円環状に一体であつたノズル翼列を製造と組換えの作業を容易にするために単体翼又は小数の複数翼列として設計されることが多くなつた。又設計上、高温高圧力化のために使用温度時におけるノズル翼の強度、このノズル翼に及ぼされる空気力、熱膨脹、熱変形等が大きな問題になる。

従つて上記タービンにおいて、単翼化されたノズルセグメントをいかにして上記諸問題点を解決した方法で支持するかが重要な点である。

従来採用されていたターボファンエンジンのノズル翼の支持装置は、第3図に示すようにノズル翼(a)の内径側フランジ(b)をサポート材(c)にボルト(d)により固定して内径側でノズル翼(a)の片持支持を行うようになしたものである。

断るものにあつては、ガス力が白抜き矢印(i)で示す如く作用するとノズル翼(l)の内径側とのフランジ(2)に大きな曲げ応力が発生し、又組立状態におけるノズル翼(l)の外径後部の隙間(j)から二次空気が矢印(g)のように漏れる等のことによりガスターピンの寿命及び性能が劣化する。又ターピン部の高温作動状態時に内径側サポート材(6)と外径側フランジ(2)の軸方向(i)の熱膨脹が異なる。即ち一般に内径側の温度が高いためにサポート材(6)とフランジ(2)の軸方向(i)の変位量の差だけ隙間(j)が縮小される。この変位量に対し隙間(j)が大きい場合は、二次空気が漏れるによりガスターピンの性能が劣化し、逆に隙間(j)が小さい場合は、この隙間(j)部に力が作用してノズル翼(l)及びフランジ等に大きな熱応力が生じて部品の寿命を減少させることになり、いずれの場合でもターピン部にとつては正常な機能を妨げることになる。

本発明は、上記実情に鑑みてなしたターボファンエンジンに於けるノズル翼の支持装置に保

い、上記スペーサ(9)により取付ボルト(10)の締付トルク力が直接サポート材(6)に及んでフランジ(2)を締付けないようにしてノズル翼(l)の相対的傾斜を防げないようにする。図中(11)は外径シール材、(12)はシュラウドサポート材、(13)は該サポート材(12)と外径シール材(11)との隙間、(14)はターピンケーシング、(15)は燃焼器ケーシング、(16)は燃焼器ライナ、(17)は第一段の動翼を示す。

上記のように構成したので、ガス力が動かない場合、ノズル翼(l)の後部の隙間(13)を約0.7mmに調整でき、ノズル翼(l)の内径側支持部のアール(4)の中心(10)を中心にして前後方向(矢印(p)、(q)方向)に夫々1.5mm程度変位するように組立て得る。

今ターボファンエンジンが作動してガス流れが白抜き矢印(i)方向に存在する場合、ノズル翼(l)の前後に生じる圧力差とガス力によりこのノズル翼(l)が後方(矢印(q)方向)に傾斜して隙間(13)を零にする。従つてこの隙間(13)を通過して矢印(i)のように流れる二次空気の漏れを防止でき

るもので、ノズル翼のフランジの支持面にアールをサポート材のアールの径より小にして設けると共に段差部及び切欠部を設け、上記フランジをサポート材にスペーサを介し支持せしめて上記ノズル翼が傾斜し両持ち支持され得るよう構成したことを特徴とするものである。

本発明の実施例について図面を参照しつつ説明する。

円環状に翼列を形成し翼1枚につき1個のセグメントに別れているターボファンエンジンの第一段ノズル翼(l)の内径側フランジ(2)の支持面に、第1図に示すように切欠部(3)とサポート材(6)のアール径より小さい径のアール(4)と段差部(5)とを設け、このようにしたフランジ(2)をサポート材(6)の2叉部に挿入し且つこのサポート材(6)の一側面にノズル翼(l)の前部シール材(7)を又サポート材(6)の他側面にノズル翼(l)の後部シール材(8)を配置して円筒形又はそれに相当する形状のスペーサ(9)を介し取付ボルト(10)により第2図に示すようにノズル翼(l)の内径側の支持を行

てガスターピン性能の向上を図り得られると共に、ノズル翼(l)が内径側のフランジ(2)と外径側のシユラウドサポート材(12)とで支持されることになるのでノズル翼部とフランジ部における曲げ応力を減少させることができる。

又ターボファンエンジンの作動時において、定常、非定常時に各部材は夫々熱膨脹する。ノズル翼(l)の位置における熱膨脹による変位は、通常のエンジンにおいて内径側が外径側より高温であるので定常状態では隙間(13)が減少することになる。又非定常状態等において熱膨脹差が組立状態における隙間(13)(約0.7mm)より大きい場合、ノズル翼(l)が前方向(矢印(p)方向)に傾斜して前述したように隙間(13)が零の状態になつて不必要的熱応力がノズル翼部及びフランジに生じることを避けることができる。

尚本発明は、第一段のノズル翼を内径側で支持した場合について説明したが、外径側で支持する場合や二段以後のノズル翼に適用すること等は任意であり、その他本発明の要旨を逸脱し

ない限り種々の変更を加え得ることは勿論である。

以上述べたように本発明のターボファンエンジンに於けるノズル翼の支持装置によれば、

(I) ノズル翼を軸方向に傾斜可能に構成したので、

運転時にノズル翼を常に両持ち支持状態にてきてノズル翼及びフランジ部の応力を最少にすることができる。

(II) 上記(I)項によりノズル翼の外径側(又は内径側)からの漏れ空気量を減少させることができてガスターインの効率を高めることができる。

(III) 高温運転時にノズル翼支持部の内径、外径側が各々熱膨脹で伸びる場合や、遷移状態で熱膨脹の大きさが設計状態と異なる場合等においてもガス力によりノズル翼が傾斜するので、該翼とフランジ部の応力を最少状態にでき又ガスターイン効率を高め得る。

(IV) 機構簡単にして容易に製作できる。

4. 図面の簡単な説明

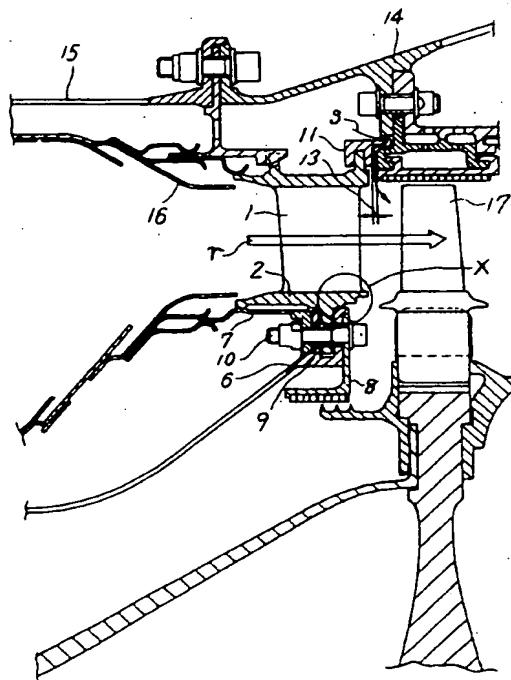
第1図は本発明のターボファンエンジンに於けるノズル翼の支持装置の構成を示す説明用縦断面図、第2図は第1図のX部の拡大図、第3図は従来のノズル翼の支持装置の構成を示す説明用縦断面図である。

(1) … ノズル翼、(2) … フランジ、(3) … 切欠部、(4) … アール、(5) … 段差部、(6) … サポート材、(7) … 前部シール材、(8) … 後部シール材、(9) … スペーサ、(10) … 取付ボルト、(11) … 外径シール材、(12) … シュラウドサポート材、(13) … 隙間。

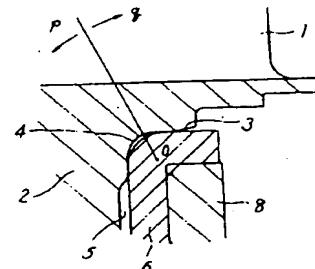
特許出願人

工業技術院長 松 本 敬

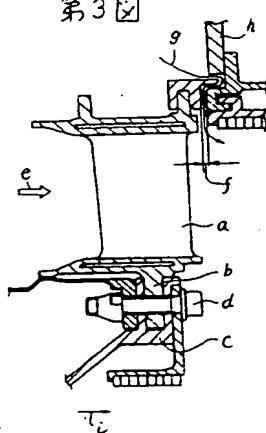
第1図



第2図



第3図



5. 前記以外の発明者

居所 東京都田無市向台町3丁目5番1号
石川島播磨重工業株式会社 田無工場内

氏名 鶴 谷 錠 正